

修士論文（要旨）
2022 年 1 月

日本語学習における学習戦略の使用は学習性無力感に影響を与えるか
—在日日本語学習者を対象とした量的調査の結果から—

指導 齋藤 伸子 教授

言語教育研究科
日本語教育専攻
220J3003
肖 譜迎

Master's Thesis (Abstract)
January 2022

Does the Use of Learning Strategies in Japanese Language Learning Affect Sense of Learning Helplessness? : Based on the Results of a Quantitative Survey of Foreign Students in Japan

Xiao PuYing
220J3003

Master's Program in Japanese Language Education
Graduate School of Language Education
J. F. Oberlin University
Thesis Supervisor: Nobuko Saito

目次

第一章	はじめに.....	2
1.	研究背景.....	2
2.	学習性無力感の定義.....	3
2.1	SILIGMAN の定義.....	3
2.2	人の学習性無力感.....	3
3.	学習性無力感に関する用語.....	4
4.	学習性無力感に関する現在の研究.....	4
5.	学習中の学習性無力感が見られる事例.....	5
6.	本研究の構成.....	6
7.	本研究の目的.....	6
第二章	先行研究.....	8
1.	学習性無力感の測定方法.....	8
2.	学習性無力感と不安の違い.....	8
3.	学習性無力感と自己効力感の関係.....	9
3.1	自己効力感と学習性無力感の定義上の関係.....	9
3.2	自己効力感ではなく学習性無力感を研究する理由.....	9
4.	学習性無力感の原因.....	10
5.	学習ストラテジーの定義.....	10
6.	学習ストラテジーの因子.....	10
7.	学習ストラテジー指導の効果.....	11
8.	先行研究から導き出される仮説.....	11
第三章	研究方法.....	12
1.	調査対象：.....	12
2.	アンケート票：.....	13
3.	調査内容：.....	13
4.	アンケート票及び有効回答数.....	14
第四章	調査結果の分析.....	17
1.	記述統計.....	17
1.1	学習ストラテジーの記述統計.....	18
2.	信頼性と妥当性調査.....	23
2.1	信頼性.....	23
2.2	妥当性.....	26
3.	相関分析.....	29
4.	差異分析.....	31
5.	回帰分析.....	31
第五章	考察.....	33
1.	リサーチクエスションの答え.....	33
2.	学習ストラテジーの指導への示唆を得る.....	34

第六章 今後の課題.....	36
1. 本研究の限界.....	36
2. 今後の研究課題.....	36
2.1 研究項目.....	36
2.2 調査内容の案.....	37
参考文献	

心理学では、学習性無力感の研究はほとんどが、学習性無力感と憂鬱の関係をテーマとしている。そこでは学習性無力感と憂鬱の関係は弱いという結論があり、学習性無力感は病気ではなく、生活の中の状態の一つと定位された。そして、この問題は病気ではないため、心理学においては、学習性無力感に関する研究より絶望感の研究に重点がおかれるようになった。また、英語学習でも日本語学習でも学習性無力感が生じた例が多くあり、研究者にはこの問題を解決すべきだという認識もある。しかし、学習性無力感という用語はまだ日本語教育では一般的ではないため、日本語教育分野の研究結果が限られている。

学習性無力感の対応方法は、現場によって異なる。筆者は、日本語学習の分野でその対応方法を見出したいと考え、この研究テーマに取り組んだ。

調査方法としては、まず在日日本語学習者に「学習ストラテジー」と「学習性無力感」についての二種類のアンケート票に答えてもらう。そして、質的に在日日本語学習者の学習ストラテジー使用状況を分析する。回収したアンケート票は、妥当性があるかどうかと質を評価するために信頼性と妥当性の調査をする。次に学習性無力感と学習ストラテジーを結び付けて研究することの妥当性があるかどうかを調査するために、相関分析で学習ストラテジーと学習性無力感の関係を解明する。さらに、回帰分析で学習ストラテジーのどの因子が学習性無力感に影響を与えるかを調査する。最後に、在日日本語学習者の日本語学習能力及び日本語能力の向上に役に立つかどうかの結果を得る。

調査結果としては、信頼性と妥当性分析によると、在日日本語学習者が書き込んだ二種類のアンケート票は信頼性と妥当性がある。

相関分析によって、学習ストラテジーの因子の中で情意ストラテジーは学習性無力感と関係性が高く、学習ストラテジーと学習性無力感と結び付けて研究することは妥当性があると分かった。

回帰分析によって、情意ストラテジーが学習性無力感に正の影響を与えて、情意ストラテジーを多く使うほど学習性無力感が高くなることが分かった。記憶、認知ストラテジーが学習性無力感に負の影響があり、記憶、認知ストラテジーを多く使うほど学習性無力感が低くなることが分かった。

記述統計にによって、在日日本語学習者が多くの学習ストラテジーを持っていることが分かったが、学習ストラテジーの分類の理解がまだ足りないことは在日日本語学習者の学習ストラテジーの使用上の問題である。この問題に対して、直接ストラテジーと間接ストラテジーを目的によって組み合わせて使う方法を学習ストラテジー指導に導入することが効果的であると考える。

参考文献：

- 足立望・大石晴美(2017)「習熟度別英語リーディングストラテジー指導の効果」『学習開発学研究』第10号、57-63
- 荒木友希子・大橋智樹(2001)「PG31 中学生における学習性無力感と帰属因の多様性との関連性」『日本教育心理学会総会発表論文集』第43回総会発表論文集、一般社団法人日本教育心理学会
- 荒木友希子(2003)「学習性無力感における社会的文脈の諸問題」『心理学評論』第46号、141-157
- 荒木友希子(2012)「学習性無力感パラダイムを用いた防衛的悲観主義に関する実験的検討」『健康心理学研究』第25号、104-113
- 荒木友希子(2000)「教示による原因帰属の操作が学習性無力感に与える効果」『心理学研究』第70号、510-516
- 荒木友希子(2001)「学習性無力感に関する実証的研究：原因帰属過程の分析を中心に」『金沢大学大学院社会環境科学研究科博士論文要旨』、1-5
- 荒木友希子(2007)「非随伴的フィードバックが知覚学習課題の遂行に与える影響」『金沢大学文学部論集、行動科学・哲学篇』第27巻、35-46
- 池辺さやか・三國牧子(2014)「自己効力感研究の現状と今後の可能性」『九州産業大学国際文化学部紀要』第57号、159-174
- 伊藤崇達(1996)「学業達成場面における自己効力感 原因帰属 学習方略の関係」『教育心理学研究』第44号、340-349
- 稲葉凌太郎(2014)「特性的自己効力感が課題固有の自己効力感に及ぼす影響」『日本心理学会 大会発表論文集』日本心理学会第78回大会、公益社団法人、日本心理学会
- 岩本尚希(2010)「外国語学習者の学習継続要因に関する一考察：言語学習ヒストリーから」『桜美林言語教育論叢』第6号、29-43
- 江本リナ(2000)「自己効力感の概念分析」『日本看護科学会誌』第20号、39-45
- 大芦治・平井久(1992)「学習性無力感に関する帰属理論についての研究」『心理学論』第35号、175-200
- 奥崎真理子・鳴海雅哉(2016)「クラスルームリサーチ：ある学生の英語学習分析」『函館工業高等専門学校紀要』第50号、69-76
- 尾崎秀夫(2017)「SILL (ESL/EFL) 日本語版の修正過程と結果」『大学英語教育学会第56回国際大会』2017年08月
- 鎌原雅彦・亀谷秀樹・樋口一辰(1983)「人間の学習性無力感 (Learned Helplessness) に関する研究」『教育心理学研究』第31号、80-95
- 久坂哲也(2016)「我が国の理科教育におけるメタ認知の研究動向」『理科教育学研究』第56号、397-408

- 鈴木久実(2009)「リスニングストラテジー指導による EFL 学習者への効果」
『Dialogue 8』、20-37
- 中井好男(2010)「中国人就学生の日本語学習の実態：再履修者のケース・スタディによる分析」『阪大日本語研究』第22号、173-204
- 中山誠一・松沼光泰(2013)「再帰属訓練法は英語学習に対する自己効力感を向上させるか」『城西大学語学教育センター研究年報』第7号、23-32
- 藤田正・富田翔子(2012)「自己調整学習に及ぼす学習動機および学習方略についての認知の影響」『奈良教育大学 教育実践開発研究センター研究紀要』第21号、81-87
- ペニントン・ワカコ(2011)「自律した学習者育成に向けた学習ストラテジー指導プログラムの効果-アクションリサーチの結果報告」『西南学院大学言語教育センター紀要』、12-27
- 水間玲子(1998)「理想自己と自己評価及び自己形成意識の関連について」『教育心理学究』第46号、131-141
- 宮崎里司、J. V. ネウストプニー (編著)、J.V. Neustupn'y (原著) (1999)『日本語教育と日本語学習:学習ストラテジー論にむけて』、くろしお出版、96
- 元木芳子(2006)「第二言語学習と学習ストラテジー」『日本大学大学院総合社会情報研究科紀要』、689-700
- 元田静(1999)「初級日本語学習者の第二言語不安についての基礎的調査」『日本教科教育学会誌』第21号、45-52
- 山田恭子(2009)「大学生の学習方略使用と達成動機 自己効力感の関係」『広島大学心理学研究』第9号、37-51
- 尹智鉉(2011)「日本語学習者の第二言語習得と学習ストラテジー」『人文科学研究所研究』第81号、35-58
- 吉村功・中込四郎「学習性無力感形成過程における随伴性認知の強度と判断の確かさ」『体育学研究』第35号、157-171
- Afflerbach P. P. Pearson and S. Paris. (2006) Clarifying Differences Between Reading Skill and Reading Strategy Manuscript Submitted for Publication.
- de Boer, Hester (2018) Long-term Effects of Metacognitive Strategy Instruction on Student Academic Performance: A meta-analysis. Educational Research Review 24 ,98-115.
- Huyghe Antoine (2008) Novel Microarray Design Strategy to Study Complex Bacterial Communities. Applied and environmental microbiology 74.6 ,1876-1885.
- Pintrich Paul R (2004) A Conceptual Framework for Assessing Motivation and Self-regulated Learning in College Students. Educational psychology review 16.4,385-407.
- Seligman Martin EP (1972) Learned Helplessness. Annual Review of Medicine 23.1 ,407-412.
- Miller, William R., and Martin E. Seligman (1975) "Depression and learned helplessness in man." Journal of abnormal psychology 84.3, 228.
- Sorrenti Luana (2015) A Psychometric Examination of the Learned Helplessness Questionnaire in a Sample of Italian School Students. Psychology in the Schools 52.9,923-941.
- 崔景贵(2013)〈解读职校生“习得性无助”现象:心理症结与教育策略〉《中国职业技术教育》

育》000.012, 65-72.

张业信 (2007) <习得性无力感向自我效能感的转化[J]>《教书育人 (高教论坛)》
2007000(001):75-76

(注1) : スチューデントアパシー : 情熱が燃え尽きてしまう学生。

(注2) : 再帰属訓練 : 教室内、教師の人数は学生の人数+1である。授業をする教師以外の教師は学生一人ずつに対応する。授業中、学生が「質問に回答する」「問題の解決のために努力する」などの行動をすると、すぐ「外的」「不安定的」「変動的」な原因帰属に導く方法。

(注3) : 翻訳依頼先 : 联桥翻译 www.lianqiaofanyi.com